

2021年度
第6回 理事会議事録

2022年 2月 21日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2021年度 第6回理事会議事録

1. 日 時 2022年 2月 21日 (月) 14:00～15:55
2. 場 所 本議場= 鉄鋼会館 802号室
(本議場に出席しない理事及び監事はオンラインにて参加)
3. 構 成 員 16名
4. 出席構成員 16名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 審議事項
 - 1) 第1号議案 2022年度 事業計画(案)承認の件
 - 2) 第2号議案 2022年度 鉄骨技術研究開発助成対象案件承認の件
 - (6) 報告事項
 - 1) 2022年度予算編成の前提・考え方について
 - 2) 外国人労働者への安全衛生教育用視聴覚教材<鉄工職種編>
作成事業[厚労省事業]への協力完了の報告
 - 3) 委員会等活動状況報告
 - ①技術委員会
 - ②災害時のBCP策定WG
 - ③日報デジタル化検討WG
 - (7) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (8) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会への出席者は、議場出席者7名、オンライン出席者9名、計16名全員であり、定款第36条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も村上監事は対面出席、野田、高橋両監事はオンラインで3名全員が出席されている旨、報告された。

(3) 会長挨拶

米森会長より「一旦落ち着いてきたようにみえた新型コロナの感染拡大は、年明け後第6波として再燃し、本日もこのようなオンライン併用での理事会開催となつてしまい残念です。この先もしばらくの間このような状態が続くことを前提に対応しなければならないが、なんとか乗り越えたいと考えています。本日は重要な審議事項もあるのでよろしくお祈りします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 審議事項

1) 第1号議案 2022年度事業計画(案)承認の件

2022年度事業計画・案について、小貫専務理事より、基本方針として、従来からの継続取組み事項のほかに、重点項目として①人材育成②協会創立50周年記念事業の準備③中長期課題への取組みを織り込んで作成したことが報告され、引き続き、個別事業について、過年度事業計画との相違点、2022年度計画で新たに取入れた項目を中心に議案書[理21-6-議1](p3-14)にそって説明された。

また、以下の事項が補足説明された。

- ・全構協創立50周年記念事業は、①記念誌の編纂・発行、②式典・パーティの開催、③その他の独自事業を三本柱とし、①については従来の記念誌と同様(株)鋼構造出版に委託する。
- ・会員共益事業の一覧表を議案書p15~16に整理してあるが、一部の事業の実施主体に関しては委員会等の設置を検討したいと考えている。
- ・共済事業のうち団体生命保険について、配当率(95%)を維持するために、現在34.2%まで低下している事業所加入率を35%以上に回復させる策について共済推進担当者連絡会議で協議した結果、各県1社以上の新規加入をお願いすることが提案されたので、この案を事業計画案に織り込んでいる。
- ・「3.技術開発・普及事業」の「(2)技術者・技能者の技術力強化支援」のうち「①各種資格の取得促進」は、前回三役会において2022年度は実施しないことが決まったものであり、事務方の原稿の修正漏れで記載されているので削除い

ただきたい。(本事業は、当初 2020 年度 1 年限りの事業として計画したがコロナ禍の影響で 1 年間延長して 2 年度にわたって実施したものであり、前回の三役会で、2022 年度は一旦区切りをつけて実施しないこととした) 本案に対する意見・質問等はなく、挙手をもって承認することが確認された。

2) 第 2 号議案 2022 年度 鉄骨技術研究開発助成対象案件承認の件

2022 年度 鉄骨技術研究開発助成の応募案件(1 件)〔東京鉄構工業協同組合が応募した「フェーズドアレイ検査法による溶接部の品質確認とその評価法の確立」 予算総額：4,980,000 円、助成金額：2,480,000〕に関し、2 月 17 日に開催された選考委員会における主な意見、及び審議の結果、助成対象として採択されたことが、議案書[理 21-6-議 2](共有画面上に表示)にそって新村技術部長より説明された。

本案に対する意見・質問等はなく、本案件を助成対象として承認することが挙手をもって確認された。

(6) 報告事項

1) 2022 年度予算編成の前提・考え方について

2022 年度予算編成作業を始めるにあたり、前提となる考え方、基本方針等が、議案書[理 21-6-報 1](p19-20)にそって小貫専務理事から説明され、了承された。

2) 外国人労働者への安全衛生教育用視聴覚教材<鉄工職種編>

作成事業[厚労省事業]への協力完了の報告

厚労省の「外国人労働者安全管理支援事業(安全衛生教育教材作成)」の一環で、「鉄工編」の作成を受託した「みずほりサーチ&テクノロジー(株)」からの協力要請を受けて、2021 年度第 2 回理事会(2021 年 6 月 29 日開催)での協議により関東支部に対応を依頼した件について、冬木工業(株)〔群馬県組合所属〕からメンバーを派遣した厚労省内WGで作成した成果品「まんがでわかる 鉄工作業の安全衛生」が別冊資料[理 21-6-報 2]により紹介された。

併せて、協力された冬木工業(株)(社長=大竹・全構協 理事)に対して米森会長より謝辞が述べられた。

3) 委員会等活動状況報告

① 技術委員会

2 月 9 日に開催された技術委員会において安全衛生WG、溶接施工WG各々から報告された各テーマの進捗状況が、議案書[理 21-6-報 3]①(p25)にそって新村技術部長より報告された。

また、安全衛生WGで検討を進めているフィットテスト実施者に対する講習会の開催方法の具体案検討用の基礎情報を得るため、フィットテスト実施に向けた準備状況、講習会に関する希望等を県ごとに調査する案が議案書(p26-30)にそって説明され、本調査を各支部長(理事)が主体的に行うよう依頼された。

② 災害時のBCP策定WG

中小企業庁が公開している複数のBCP作成例の一つをファブリケーター用にアレンジして作成したひな形が、WGの成果品素案として議案書[理 21-6-報 3]②(別冊)により大竹リーダーより紹介された。

併せて、会員・構成員がBCP作成の重要性に対する理解を深めるため、また、本ひな形を基にして各社独自のBCPを円滑に作成できるよう説明会を開催する案が議案書(p31-32)により説明された。

③ 日報デジタル化検討WG

日報デジタル化検討WGの成果品の案が、議案書[理 21-6-報 3]③(別冊)により提示され、内容の概略が千田技術部担当部長より説明された。

(7) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2022年2月14日時点の構成員登録数は2,208社で、前回報告時より1社増加したこと等が、議案書[理 21-6-他 1](p34-38)により事務局から報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2021年12月の鉄骨推計需要量は約44.5万トン(前年同月比27.6%増)で、同年暦年合計では462.3万トンと、近年では比較的高いレベルであることなどが、議案書[理 21-6-他 2](p39)により事務局から報告された。

3) 主要会議日程

2021年度及び2022年度の主要会議日程が議案書[理 21-6-他 3](p41-42)により確認され、2022年度については以下の変更点が事務局より説明された。

- ・議案書には記載されていないが、臨時理事会を4月25日(月)に沖縄で開催する。
- ・議案書では9月27日(火)開催になっている三役会、理事会、賛助会員との懇談会は、会議室予約の事情で9月29日(木)に変更する。

4) 支部報告

[北海道]

- ・支部三役会を1月11日に開催した。
- ・手持工事量は地区により、またファブによりバラツキが大きい。道央支部ではHグレードファブが3~9ヶ月、Mが1~5ヶ月、R・Jが1~3ヶ月。
- ・稼働率は、75~100%でバラツキが大きい。
- ・見積件数は少ないが、若干増加している傾向がみられる。
- ・鋼材の価格上昇と納期の長期化は相変わらず続いている。

[東北]

- ・2月17日に予定していた東北地方整備局との懇談会は新型コロナ感染拡大のため中止になった。
- ・鋼材の価格上昇と納期の長期化に係る行政機関及びゼネコン業界団体に対する要望活動は、各県において1月に重点的に実施した。
- ・手持工事量は、Hが半年から1年程度、Mが2~7ヶ月、R・Jが1~5ヶ月程度。

- ・稼働率は、30～120%とバラツキが大きいですが、概ね80～100%程度となっている。
- ・見積件数は、岩手県のみ「多い」となっているが、他県の多くは「少ない」になっている。
- ・鋼材の価格上昇と納期の長期化には相変わらず苦慮している。価格については高止まり状態であったが、再度もう一段上がるとの情報もある。

〔関東〕

- ・手持工事量、見積件数等は、ほとんどの県で「普通」またはそれ以上、となっている。
- ・鋼材価格上昇と納期長期化の不安は続いているが、現在は大きな混乱はなく安定した状況である。行政機関及びゼネコン業界団体に対する要望活動は、地道に継続している。
- ・外国人の入国制限の影響で技能実習生が入国できないため人手不足になっている旨複数の県から報告されている。
- ・工場に保管されている鋼材が盗難にあったとの報告が某県からあった。

〔北陸〕

- ・前回報告以降、各県とも目立った活動は行えなかった。
- ・手持工事量は、Hが6～12ヶ月、Mが2～6ヶ月、R・Jが1～3ヶ月程度で、前回の報告から大きな変化はない。
- ・稼働率は、70～120%とバラツキが大きい。
- ・見積件数は、以前は「少ない」が多かったが、「普通」に戻った感がある。
- ・鋼材価格の再値上げの情報もあり、ゼネコンとの価格交渉が難しくなっている。

〔中部〕

- ・1月は各県とも理事会を開催した。
- ・手持工事量は、Hが3～16ヶ月、Mが2～10ヶ月、R・Jが1～3ヶ月で厳しい。
- ・稼働率は、40～120%とバラツキが大きい。
- ・見積件数は、静岡は少ないが、他県は「普通」である。
- ・ゼネコンとの交渉において、価格と納期の提示が難しくなっている。
- ・鋼材価格上昇分の鉄骨価格への転嫁が不十分であり、今後の課題になっている。

〔近畿〕

- ・各県とも前回報告時から目立った活動は行っていない。
- ・1月18日に、鋼材価格上昇と納期長期化に係る要望書を近畿地方整備局に提出した。兵庫県に関しては、2月17日に県都市住宅部の担当者が来訪され関連情報の説明を行った。議会への要望を3月17日に予定している。
- ・手持工事量は、Hが10～12ヶ月、Mが3～5、6ヶ月、R・Jが1～3、4ヶ月。見積件数は「少ない」～「普通」である。
- ・鋼材価格は高止まりしており、納期の長期化も改善されておらず、BCPは16ヶ月となっている。

〔中国〕

- ・例会は中止になった。
- ・手持工事量は、Hは多いところでは1年以上の仕事を確保している。Mは2～6ヶ月で若干の改善がみられる。R・Jは1～3ヶ月。

- ・稼働率は70～100%で改善している。
- ・見積件数は、若干ではあるが増加傾向みられる。
- ・受注価格は横ばいであるが、材料費上昇分が転嫁されておらず加工費を圧迫している。
- ・鋼材価格上昇と納期長期化の不安は、今後も続きそうである。

〔四国〕

- ・コロナ禍の影響で支部活動は低調である。3月には支部会を対面で開催したいと考えているが感染の状況次第である。
- ・手持工事量は、Hは半年分程度確保しているが、M以下はかなり厳しい状況である。見積件数も同様に少ない。
- ・今後の見通しについても、仕事量、受注価格、鋼材価格・納期等 不安要素が多い。

〔九州〕

- ・前回報告以降支部理事会は開催しておらず、次回は3月3日にリモートで開催する予定である。
- ・支部事務局長会議を1月27日にリモートで開催した。
- ・宮崎県組合の創立50周年記念式典は、感染状況が改善されないため中止になった。
- ・手持工事量は、Hが5～9ヶ月、Mが2～6ヶ月、R・Jが1～2ヶ月で、沖縄が苦戦している。
- ・稼働率は、押しなべて70～100%であるが、地域や会社規模によりバラツキがある。
- ・見積件数は、やや少なめの状況が続いている。
- ・受注価格については、材料費の上昇分転嫁が、大規模物件、難度が高い物件を中心に少しずつではあるが進んでいるように感じている。
- ・本年終盤から来年半ばにかけて熊本県の半導体工場をはじめ、福岡、長崎等で大型物件の発注が見込まれており、現場スタッフをはじめとする人員確保が課題になると予想している。

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

<u>役 職</u>	<u>氏 名</u>	<u>出 席 形 態</u>
会 長	米 森 昭 夫	議 場
副 会 長	永 井 毅	議 場
〃	大 島 嗣 雄	議 場
〃	山 本 泰 徳	議 場
専務理事	小 貫 武	議 場
常務理事	大 橋 利 勝	議 場
理 事	佐 藤 正 記	オンライン
〃	渡 辺 勝	オンライン
〃	大 竹 良 明	オンライン
〃	寺 田 健 信	オンライン
〃	多和田 桂 太郎	オンライン
〃	出 雲 津 芳	オンライン
〃	福 田 秀 章	オンライン
〃	井 原 常 裕	オンライン
〃	岩 永 洋 尚	オンライン
〃	辰 巳 功	議 場
監 事	村 上 眞 樹	議 場
〃	野 田 博 文	オンライン
〃	高 橋 伸 和	オンライン

理事総数 16名 うち出席者 16名
監事総数 3名 うち出席者 3名